

# 算数部会 実技・理論 研修会 終了報告

<p>テーマ</p>	<p>数学的な見方・考え方を働かせて学ぶ子の育成 ～算数的活動の充実を通して～</p>	
<p>日時</p>	<p>令和元年 8月23日(金)</p>	
<p>会場</p>	<p>江別市立豊幌小学校</p>	
<p>講師</p>	<p>大野 桂 氏 (肩書:筑波大学附属小学校教諭)</p>	
<p>参加者</p>	<p>69名</p>	
<p>研修会 の 様子</p>		<p>今年度初めて行った、石算研提案授業。 5年「分数の大きさ」とし算ひき算」の学習。 分数くじを使い興味を持たせながら、問いを生ませ ていきました。くじを順序立てて行うことで、分母や分子 をそろえなければならないという必然性を持たせまし た。</p>
		<p>大野先生による師範授業。6年「比」の導入の学習。 正方形と長方形の旗を提示し、いろいろな大きさの 国旗を作ろうというところからスタートしました。全員が 自由に作った長方形の旗を見て、「バランスが悪い」 という子どもたちの問いを生み出し、比の概念に迫っ ていきました。誤答を大切に扱い、全員を同じスター トラインに立たせながら丁寧に課題を扱う内容でし た。</p>
		<p>2つの授業研の後も新しい試みを行いました。石算研 の提案授業についてパネルディスカッション形式での 事後研。主に「問いを生む問題提示の工夫」につい て話し合いました。少しのしかけで児童自身が問いを 持つことができたり、小さな問いを全員で大事にし ていったりすることが、とても重要という意見がでまし た。全員が考える場を作ることの重要性についても話し 合われました。</p>
		<p>大野先生によるご講演。主に授業、対話の大切さ について話していただきました。授業については、指導 案通りではなく、児童の実態に合わせて変えていくこ との必要性や、スタートラインを揃えることで自力解決 時の学力差をなくしていくことについて教えていただき ました。また、対話については、突拍子もない意見や 児童の悩んでいるつぶやきを大切にしながら進めて いくことについて話されました。教師のコーディネ ート力を日々の授業で磨いていくことの重要性を感じさ せられました。分かり易く、示唆に富んだ内容の講演と なり、アンケートからも参加者にとっても好評でした。</p>

